

## 2016年度第1四半期決算説明会 質疑応答

【開催日】 2016年8月2日（火）18:00～19:00

【出席者】 常務執行役員 CFO : 増 一 行  
主計部長 : 蜂谷 由文  
IR部長 : 武久 裕

### 【質疑応答】

#### ① 業績/経営関連

#### Q. 第1四半期決算をどう評価するか。

- A. ● 通期業績見通しに対する達成率は40%となったが、一過性利益が3割強を占めている。また、油価の損益実績への反映には3-6か月程度のタイムラグが発生する事から、引き続き注視が必要。
- 一方で、従前より実施してきた豪州石炭事業におけるコスト削減や鮭鱒養殖事業における収益回復等により、堅調に推移していると評価している。

#### Q. 通期業績見通しを変更しない理由は。保守的過ぎないか。

- A. ● まだ3か月のみの実績である事、前述の通り油価の損益実績への反映には3-6か月程度のタイムラグが発生する事、地政学的リスクの高まりにより資源市況の不安定さが増している事、第1四半期に計上した一過性利益320億円を見通しに織り込んでいた事から、通期業績見通しを据え置く事は現実的な判断と考える。

#### Q. 第1四半期に発生した一過性損益の内容と今後の発生見込み。

- A. ● 資源は、シェールガス事業の再編による一過性利益160億円とニッケル事業売却益80億円。非資源は、食肉事業関係会社統合関連利益70億円等。
- 第1四半期の一過性利益は、通期計画に見込んでいたもの。
- 第1四半期程ではないが、第2四半期以降も、ネットで利益を見込んでいる。

#### Q. 決算資料の投資CFの内、「その他」の+522億円について内訳を教えてください。

- A. ● 定期預金の満期に伴う資金の回収などによるもの。

#### Q. 資源・非資源双方において資産の入替えは進んでいるか。

- A. ● 第1四半期に実行した投資キャッシュ・フローは資源でネット300億円の支出、非資源でネット100億円の収入、合計でネット200億円の支出戻となった。新規投資はリリースの通りだが、主な売却・回収案件は以下の通り。
- ファンド関連事業 約140億円  
リテイル関連事業 約130億円  
不動産関連事業 約120億円  
ニッケル関連事業 約80億円
- 資源は、原則、投融資残高を一定に保つ為、入替で対応する。非資源については、今後も、キャッシュ・フローの範囲内で積極的に投資を行っていく。

**Q. 円高に振れてきているが、これからどのような影響が考えられるか。**

A. ● US\$に対し、1円の円安/円高につき、年間15億円の増益/減益インパクト。

② 個別事業関連

**Q. エネルギー事業グループは、一過性利益の180億円を除くと約30億円が実力ベースの利益だったが、今後の見通しは。**

A. ● 油価の損益実績への反映には3-6か月程度のタイムラグが発生する事から、引き続き注視が必要。  
● 2016年1月～3月のドバイ油価平均はUS\$30.4/bblだったが、この影響は第2四半期以降に反映される。

**Q. 円高にも関わらず自動車関連事業は前年同期比増益となっている。どのように評価するか。**

A. ● インドネシアの三菱自動車事業は、堅調に進捗している。  
● タイのいすゞ事業では、年間1割程度自動車全需台数が落ちるのでは、と予測しているが、スタートは想定よりも堅調に推移した。

**Q. MDP事業の第1四半期実績と利益見通しは。**

A. ● 第1四半期実績は66億円で、2014年度第4四半期ぶりの黒字。  
● BMAの1Q生産量が四半期ベースで過去最高を記録した事、生産性向上施策の継続によりトン当たりコストが下がった事が主な要因。  
● 現在の原料炭価格が継続すれば、通期予想上振れの可能性があるが、天候等の季節要因による操業・収益への影響も予想される為、通期見通しは据え置いている。

**Q. Olam社の通期計画に対する進捗は。**

A. ● Olam社は上場企業且つ決算見通しを公表していない為、業績見通しについては当社よりの回答を控える。

**Q. Cermaq社の足元の事業環境と業績見通しは。**

A. ● 第1四半期の当社持分損益は約9億円。  
● 北米市況上昇に加え、養殖成績も改善傾向にある事から、2016年度は収益の改善を見込んでいる。

以 上